



善正寺だより

掲示板法話

仏心とは「他人事と捨てておけぬ心」

悲しみに寄り添い、連帯しよう

三月十一日午後二時四十六分発生の東日本大震災は、巨大地震と巨大な津波、そして原子力発電所の事故という世界でもまれな未曾有の事態です。死者・行方不明者が二万八千人以上、一ヶ月を経ても地元市町村の行政機能麻痺などの事情もあり、全貌が把握できない惨状です。宮城県沖から茨城県沖にかけて南北500キロ、東西200キロの広域で3度にわたって破壊が連動した結果起こった巨大津波が『日本の原発は安全』という想定を無残に覆しました。周辺地域の避難者がいつになつた元の住まいに戻れるのか、見当もつきません。まことにむごいことです。しかし、たまたま東日本に居住、滞在する人々がこの犠牲者、被災者になったのですが、他人事ではありません。

四月九日から本願寺で始まった親鸞聖人七五〇回大遠忌法要は、雅楽演奏なしの縁儀、助け合い募金が呼びかけられるなど、自粛ムードに徹し、親鸞聖人の「世の中安穏なれ、仏法広まれ」というお心に即した大法要となりました。この宗祖の願いを現代のこの事態の中

でどう受け止め、活かしていくのか、が私たちに問われています。

モノがあふれ、捨てられ、電気も水も無尽蔵にあるかのごとく、欲しいままに使い続けてきた我々の生活スタイルを見直し、復興支援に協力するなど、できることは沢山あります。科学技術で全ての自然現象をも予知、制御できるという私たちの思い上がりを見直し、抑制する智慧が大切にされる必要がありますが、戦後、最大の国難とも言われるべき事態に対して、日本列島全体に義捐金など支援の輪が広がり、連帯感が芽生えています。そこに小さな希望の灯が見えます。

中学一年生が、小学生の時代に使っていた古いランドセルをきれいに磨き直してランドセルをなくした小学生にプレゼントしたそうです。

茨城県に単身赴任の若い人は、三月末日を以て三重県の地元に戻ることになっていたのですが、「仲間の苦勞を見捨てて帰れない」と帰りをまちわびる家族の理解を得て、被災地にとどまって頑張っているとメールが届きました。



〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

☆ 5月22日(日)総会 & 公開法座

10時:門信徒会総会 (出欠票回収、昼食準備あり)

1時:「公開法座」(講師・藤大慶先生・茨木市)

終了後新旧行事交代式と会食 (世話方様、新旧行事様)

◇キッズサンガ 5月7日(土)午後4時 お友達誘って来てね

毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK 飴ガム付。年中無休

◇三重組コーラス 西勝寺様で 5月9日(火)午後1時半

☆5/20(金)12時半、久保田蓮光寺様で三重組仏婦総会

6/7(火)、6/27(月)午後西勝寺様で練習、

☆7/7(土)名古屋別院音楽祭、バス9時小杉、9時半桜

「仏教讃歌メドレー三重組版」参加費千円、新指導者体制

5/23(月)「三重組十三講」塩浜 法柳寺様で

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評

長男もブログに参加、4万回2千以上のアクセス達成! 毎日60~

70の訪問に感謝! HPからのメール、悩み相談など大歓迎!

※10月15日(土)京都西本願寺親鸞聖人750回大遠忌法要

バス参拝(50名)定員になり次第締め切り。まだ余裕あり。費用8

千円を添えてお早めにお申しこみ下さい。宗祖讃仰作法音楽法

要でお勤め。住職、若院揃って僧侶として出勤。ご本山のご法要

のインターネット生中継が見られます。次回は5/9から5/16



被災地の人々のご苦勞を直接和らげることはできなくても、「寄り添う心」をお届けすることは可能です。「仏さまとは他人事と捨てておけぬ心の持ち主」です。悲しみに寄り添い、連帯しようという心に基づく支援活動を続けたいと思います。

☆カンパ有難う☆

結城三春様・飛鳥一枝様・山村若子様・他匿名様よりお志・切手有難う



本堂披露宴「娘達よ」の大合唱で大いに盛り上がる
琴演奏、詩吟、踊り、謡い、ご門徒さん手作りの祝宴!
100名を越す参列者、温かい絆の確認が!

坊守スケッチ

結婚式を終えて

四月三日の結婚式から早くも一月。その三週間前に起きた、前代未聞の被害をもたらした東日本大震災！

長男はこの時期に、大勢の皆様から祝福されて、結婚式を挙げることを、大変申し訳なく思い悩んだ。当日の新郎挨拶で、そのことに先ず触れた。

「この時期にこのように皆様からお祝いしていただくことは、大変心苦しく思います。人生の船出の時に、同時に大震災に巡り会ったことは、今後いかなる時も、決して浮かれることなく、困った人々や苦しむ人々のために、一生懸命働くようにという、叱咤激励と受け止めて、二人で誠実に歩んで参ります」。これを聞いて、我が息子ながら、アップレと誉めてやりたかった。

次に両家を代表した住職の挨拶では「長男はお祖父さんっ子。檀家参りのお説教では、私の父の話をよくするそうです。亡き老僧は息子が子供の頃、夕食後のお参りで、テレビに夢中になっっている子供達を決して叱ることもなく、仏間でじっと待っていてくれまして。仕事で忙しい私達ならば、何が一番大切なことも、しつけられなかったと思います。今日はそんな息子にふさわしい人生のパートナーを迎えられて、亡き父もきつと喜んでいてることでしょう」。

夕方の本堂披露宴では、世話方さんや行事さんが献身的にお手伝いして

下さって、百名程の皆様がご列席下さった。新郎新婦は各テーブルを回り、皆様に親しくご挨拶。住職から教えられたお名前を心に止め、手作り披露宴ならではの『交流』が生まれた。最後は次男婚約者の伴奏で『娘達よ』の大合唱！会場全体が温かいムードに包まれ、そして万歳三唱で第一部の締め。続いてお世話して下さった方々が、庫裡四間で飲食。後片付けは疲れていたので翌日に回し、忙しい一日が過ぎた。お世話して下さった皆様は、準備の段階から三日連続で寺にご奉仕。本当に有難く、感謝に堪えない。今回の経験は、私にとって、お寺とご門徒さんとの『心の絆の確認』になった。お金では買えない『尊い絆』を再発見した。大震災後、『地域の絆、家族の絆』の重要性が叫ばれているが、息子の結婚式で、それを学ばせて頂いた。冠婚葬祭の場が、すっかり業者任せになったために、次第に薄れてしまった『人のご縁』！大震災をきっかけに、もう一度人のご縁の大切さを再確認したい。未曾有の震災被害を、他人事と受け止めずに、私達全体がその苦しみを分かち合うならば、きつとその先に、立ち上がる光明が見えてくることだろう。先日新婦を伴って、隣のお寺に寺参りに行った。こういう慣習も薄れつつあるが、私も三十七年前に亡き姑に連



式盃お手伝い 小5 伊崎朱音ちゃん (左) 服部智夏ちゃん (右)

れられて行ったことを思い出した。「お母さん」と新婦から呼ばれて、一瞬誰の事かと戸惑ったが、嫁も一年生、私も姑一年生、お互い焦らず気長に、仲良く慣れていきたいと思う。

☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆孫不憫なりと云えども 菩提所の宴が縁で 在所にデビュー

☆三世代 連ね宴に 喚ばるるは

☆やさしきちに 咲ける白梅 五六輪

☆降灰を 逆手に焼きし 陶工の

☆花瓶に醸す 灰釉(ぐすり)の妙

☆待つ君に 讃歌で祝う 春の宴

☆幾万の 石にぶつかる 雪消水

☆三重組コーラス

☆練習は智積西勝寺様で午後1時半・

☆5/9(月)・6/7(火)6/27(月)

☆5/20(金) 12時半蓮光寺様で

☆三重組仏婦総会「仏教讃歌メドレー」

☆7/7(木)名古屋別院音楽祭・新指導者で。バス9時小杉、桜9時半。千円

☆キッズサンガ・杉の子合唱団

☆5/7(土)午後4時お友達誘って来てね！夕方5時の鐘撞きは毎日。

☆ホットニュース☆

☆結婚式披露宴のダイジェスト写真集が出来ました！B4判2枚で、これを見れば当日の様子が一目瞭然。記念としてご希望の方はお寺までお申し出下さい。

☆5/22(日)午前10時「門信徒総会」昼食の用意あり。出欠票を行事さんが回収。午後1時より「公開法座」どなたでもご自由にお参り下さい。

☆10/15(土)親鸞聖人750回遠忌法要バス参拝、席の余裕がありますので、ごぞつてお申し込み下さい。

☆善正寺のホームページ「三重 善正寺」で検索可、毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。長男も若い感覚でブログ投稿。開設2年9か月で4万2千以上。平均一日70アクセス！

☆住職と坊守の2冊目の共著本『鳥の眼・虫の眼・仏の眼』(自照社刊)好評発売中！挿絵は門徒の服部雅之氏)

☆編集子より ☆

「善正寺だより」第二〇九号をお届けします。◇前号、実は震災発生前の編集・印刷であったため、読者の皆様には違和感がありだつたのではないかとお詫びします。◇長男も披露宴の席上「心苦しさを叱咤激励と受け止め、精進したい」と心情を吐露しました。何が起るかわからない世の中だ、と痛感させられます。◇本山の大遠忌法要も「悲しみを抱きつつ」の雰囲気を感じます。「世の中安穏なれ」の心をかみ締め、ご法要にお参りしましょう。合掌。

「花の命は短かくて苦しみことの多かりき」作家林芙美子の言葉です。幸せはほんのつかの間じかに何が起きても大丈夫という安心感に抱かれて力強く生き抜かねばなりません。先月の結婚式披露宴で入り口に二つの額字が飾られました。一つは新婦の作品で「縁は異なもの味なもの」もう一つは新婦の書道の恩師の作品で「孤掌難鳴」(こしょうなせがたし)意味は「片方の掌で手を打ち鳴らすことはできない人間は一人では事を成すことは難しい何事も協力者が必要だ」ということです。人生の新しい門出を祝うにはふさふさい花むけのお言葉です。若い二人が恩師の言葉を心に刻んで手を携えて仲良く新生活を送って欲しいと願っています。この度の大震災で被災された方々の嘆き悲しみ苦しみは筆舌に尽し難いものです。一瞬の内に全てを失い、今まで「あたりまえ」であったものが「あり難い」ものになり、大きく価値転換させられました。日本中の人々が「その苦しみはあなた方だけに負わせない皆で分かち合います」と応援しています。復興もそこに長い年月とねばり強い努力が必要ですが、必ずできると信じて共に手を携えましょう。そして失いかけた「人の絆再生」の契機となるように前向きに考えましょう。五月は二十二日(但)午前門信徒総会、午後公開法座(藤大慶師)どうか皆様お誘い合わせてお参り下さいませ。若坊寺がお寺の行事に初デビューします。お集(みに)。

合掌

平成二十三年五月

善正寺坊守 亮子 拝